

氏名	藤澤 盛樹
学位の種類	修士 (看護学)
学位記番号	修士 第 181 号
学位授与年月日	平成27年3月10日
学位論文題目	小児救急場面における看護師のトリアージスキルの 特徴

論文内容要旨

※整理番号	186	(ふりがな) 氏名	(ふじさわ せいき) 藤澤 盛樹
修士論文題目	小児救急場面における看護師のトリアージスキルの特徴		
研究目的			
小児救急トリアージ場面において看護師が実践しているトリアージスキルの特徴を明らかにする。			
研究方法			
小児救急患児の院内トリアージを参加観察し、観察ノートを基に、トリアージ看護師 9 名へインタビューを行い、質的記述的研究で分析した。			
結果			
分析の結果、10 カテゴリー、43 サブカテゴリー、222 コードから抽出された。以下、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを《 》で示す。【子どもの外観を重視】【小児期感染症を考慮して隔離要否を判断】【脱水の程度を見極め】、【子どもの苦痛と緊張を緩和】【年齢に合わせて症状を直接確認】【家族の協力を得ながら客観的に情報収集】【好発する急性疾患を見当】【急変のリスクを評価】【診察の長期化を予測し緊急度を引き上げ】【家族の緊張を緩和しながら具体的に指導】が抽出された。			
考察			
トリアージスキルの特徴として、まず救急患児を前にして、【子どもの外観を重視】した第一印象で観察を行い、トリアージが続けられるかどうかの最初の判断をしていた。そして、特異的な発疹や耳下腺腫脹の有無により、トリアージの早い段階で、【小児期感染症を考慮して隔離の要否を判断】し、また、簡便に【脱水の程度を見極め】ていた。看護師は、《子どもの緊張を緩める配慮》をしながら、《苦痛緩和を心がけて観察》し、【子どもの苦痛と緊張緩和】を図りながら、トリアージをすることが、症状悪化の予防と子どもの安寧のために重要と考えていた。子どもには、発達【年齢に合わせて症状を直接確認】しており、症状や状態を《発達年齢を加味して評価》していた。家族には、《幼児の体温測定を家族に依頼》することなど、【家族の協力を得ながら客観的に情報収集】することで、正確な情報を得ていた。また、家族の冷静さや動揺にも着目し、《家族の訴えと整合性を吟味》しながら、小児に【好発する急性疾患を見当】していた。急性疾患に見当をつけると、フィジカルアセスメントの視点で【急変のリスクを評価】し、緊急度決定を行っていた。しかし、身体的な緊急度が高い状態ではなくても、外来【診察の長期化を予測し緊急度を引き上げ】ることで、子どもと家族の待ち時間を長期化させない配慮もしていた。			
看護師は、小児救急外来を受診する子どもの親には、不安や緊張があることを念頭におき、トリアージ中であっても緊急度の低い子どもの家族には、【家族の緊張を緩和しながら具体的に指導】することで、家族が安心して帰宅でき、病児を看られるように支援しており、家族への指導もトリアージの一部であることが示唆された。			
総括			
トリアージスキルの特徴の一つ目は、まず、子どもの外観を観ること、そして、小児感染症と脱水症状を見極め、必ず、本人と家族に状態を確認し、表現する症状から成り行きまでを予測し、緊急度を決定していることである。二つ目は、トリアージという限られた時間の中で、苦痛を緩和し、家族への支援を心がけていることである。			
小児に特有なトリアージでは、ファーストインプレッションを大切に、家族支援を含めたトリアージスキルとして、冷静で思慮に富んだケアとして活かしていくことが重要である。			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。